

戦前期のアイドル・ポップス(?) を聴く

山田 晴通

* バートン・クレーン (1901-1963)

〈おかしな日本語で歌う外国人〉の原型

「**酒がのみたい**」、「ニッポン娘さん」(1931) などがヒット

山田晴通 (2002) : バートン・クレーン覚書.

コミュニケーション科学 (東京経済大学), 17, pp.191-227.

山田晴通 (2008) : バートン・クレーン補遺 (1)

- 生い立ち, 最初の日本滞在(1926-1936), 帰国から日米開戦前まで -.

コミュニケーション科学 (東京経済大学), 28, pp.119-140.

* 二世歌手たちのブーム

『青空～あなたとならば』(1998 : テイチク)

『オ人形ダイナ』(2011 : ブリッジ / コロムビア)

* 川畑文子 (Alice Fumiko Kawahata, 1916-2007)

ハワイ出身、カリフォルニア育ちの三世

1933年末の日本劇場の柿落とし公演の主演 → 日系人芸能人最大のスター

本領はダンサーで、タップやアクロバティックなダンスを得意とした

歌手としては低い声で、技巧的ではない、素人的な歌い方

「**あなたとならば**」I'm Following You (1935)

→後に、1979年に斎藤憐の戯曲＝オンシアター自由劇場の舞台『上海
バンスキング』で吉田日出子が歌い広く知られるようになった。

* 二世歌手たちが果たした役割

女性歌手が多く、少女歌手、アイドル的存在でもあった

米国のポピュラー音楽が「ジャズ」として普及する過程に貢献した

ハワイ出身者が多く、ハワイアン音楽の浸透にも貢献した

* チェリー・ミヤノ (Cherry Miyano, 1920 - ?)

ミヤノは、川畑文子の妹分。

デビュー盤ではA面(「おゝ櫻」)、B面(「スキートジェニーリー」)とも、川畑がタップを入れている。

「スキートジェニーリー」 Sweet Jennie Lee (1935) 訳詞：三根徳一

→訳詞の三根は、歌手ディック・ミネ(1908-1991)のこと。

この曲も『上海バンスキング』にとりあげられ、吉田日出子の歌や映画版と連動した松坂慶子が歌うレコードもある。

「街からの手紙」 Should I (1937) 作詞：門田ゆたか

→ミヤノ自身が自らタップ・ダンスを入れている。

* ヘレン隅田 (Helen Sumida, 1917 - ?)

カリフォルニア出身の二世 1934年から1937年に日本でレコーディング

「誰も知らない」(1936) 作曲：鈴木静一、作詞：佐伯孝夫

* ニッポン・ベティ・ブープ (Nippon Betty Boop = Alyce Hamada ?)

正体不明の歌手。レコード2枚分、4面の録音だけが残されている。

リラ・ハマダ、ニナ・ハマダの姉？

「恋の思案顔」(1934) 作曲：C・ラブハム、作詞：奥山巖

* リラ・ハマダ (1922 - ?)

1929年から1940年ころまで、妹ニナとともに、少女歌手 / ダンサーとして日本で活動。1935年から1936年にかけては、米国にいた。

「三匹ノ小豚」 Who's afraid of the Big Bad Wolf? (1937)

作詞：桐山麗吉、編曲：服部良一

曲はディズニー映画『三匹ノ小豚』の主題歌

* チェリー・ミヤノ

「狼なんか怖くない」 Who's afraid of the Big Bad Wolf? (1935)

作詞：島田磬也、編曲：中澤壽士

現在よりもカバー曲は多かった。洋楽日本語版は、歌詞も多様。